

WAFCA ANNUAL REPORT



2022



発行：認定NPO法人アジア車いす交流センター（WAFCA）
〒448-0834 愛知県刈谷市司町1-2 ふれあいプラザゆうきそう
TEL：0566-23-5822 FAX：0566-23-5727 MAIL：contact@wafca.jp

発行日：2023年6月11日

車いすが変わる、子どもたちの世界。

WAFCA Group Vision 2030

WAFCAは障がい児一人ひとりに寄り添い、自立へ導く実効性のある環境作りに取り組むことによって、障がい児のレベルに応じた自立と生活の質の向上を実現します。

実現に向けて 一活動の4本柱一

| | |
|---------------|---|
| 1 海外での支援活動 | WAFCAの強みである総合的、継続的支援を着実に推進 ▶多くの障がい児が一人ひとりのレベルに応じた自立を実現 |
| 2 日本と海外の交流 | 日本と海外および海外現場間の交流を定常的かつ活発に促進 ▶①相互理解と支援レベル向上 ②各国でWAFCAへの共感拡大 |
| 3 活動財源の確保 | 幅広い資金調達仕組み、仕掛けを構築 ▶国内外の活動を行うための財源を安定的に確保 |
| 4 活動エリア | タイ、中国、インドネシア+東南アジア1か国で活動を推進 ▶アジア社会の中のWAFCA活動への認知・共感が拡大 |

中期計画（2020~2022年）・・・各国の課題と重点取り組み事項

| | |
|--------|---|
| タイ | <ul style="list-style-type: none"> ① 車いすサービスセンター運営の安定化 ② 特殊教育センターの職員（理学療法士）とのネットワーク強化とスキルアップ |
| 中国 | <ul style="list-style-type: none"> ① 事業の見直し（車いす寄贈を中止、奨学金支援と交流プログラム実施に資金を集中） ② 活動許可に関する情報収集 |
| インドネシア | <ul style="list-style-type: none"> ① 支援対象地域の拡大（5県⇒8県）（2020年度） ② 車いすの安定した調達とプロバイダーの育成 |
| 日本 | <ul style="list-style-type: none"> ① 青少年リーダーシップ・プログラム（YLP）の立ち上げと安定した資金調達 ② プロジェクト・マネジメントのスキルアップ |

振り返り 評価

2019年にWAFCAグループの10年後のありたい姿を定めた矢先のコロナ禍。現地の障がい児支援活動が困難な状況下、弱い立場に置かれている子どもたちのため「自分にも何かできないだろうか」と考える多くのWAFCA支援者の輪が国境を越えて繋がって経済困窮家庭へ多くの緊急支援を行うことができました。他方で長期間の行動制限や企業業績悪化に伴う寄付金減等の影響を受け、現地も日本側も当初思い描いた計画が実行できずに悔しい思いを抱き続けた3年間でもありました（中期計画の第一期FY20-FY22に該当）。しかし、第二期が始まる今年度は大きく舵を切り替え、活動水準を数年前に戻し、加えてありたい姿を実現するための再スタートを切る年にする考えです。



従い、2023年度のWAFCAグループのスローガンはRestart!。未だコロナの影響から脱しきれない状況ではありますが、現地の仲間との結束を固め一緒に力強く活動の4本柱に取り組んでいくという想いを込めました。

| | |
|---------------|----------------------------------|
| 1 海外での支援活動 | 支援水準をコロナ前に戻すことに加え、新規支援サービスの企画・導入 |
| 2 日本と海外の交流 | 対面での交流機会増による国際交流の促進 |
| 3 活動財源の確保 | 落ち込んだ収入を回復すると同時にグループ全体の財政規律の確立 |
| 4 活動エリア | 東南アジアで1ヶ国追加目標に向けた実態調査 |

WAFCA Group Vision 2030の実現のためには、WAFCAを支えて頂く会員のみなさまの継続的なお力添えが不可欠であり、想いを同じくする仲間としてRestart!を合言葉に共に歩んでいただくことをお願いする次第です。

数字で見る 2022

年度の W A F C A

＼車いす寄贈台数／

432台



タイ**178**台+インドネシア**244**台+中国**10**台

累計：**7,078**台

タイ：4,090台 インドネシア：1,327台

中国：1,480台 その他181台

＼奨学生の人数／



153人

タイ**48**人+インドネシア**55**人+中国**50**人

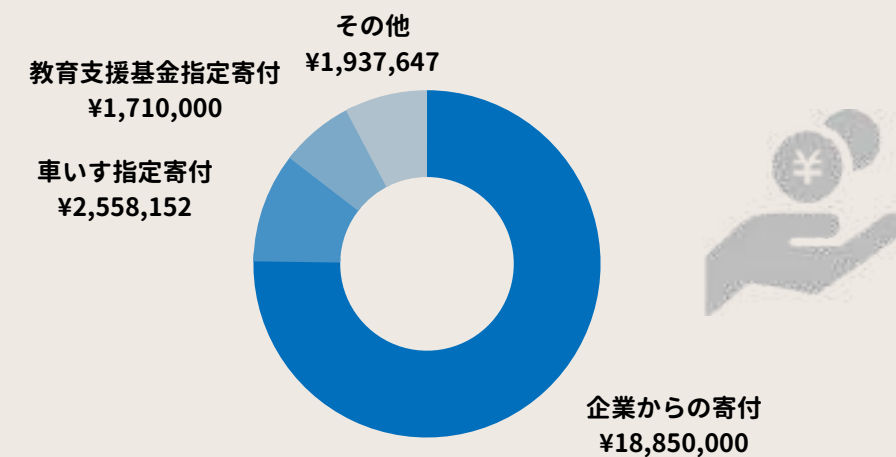
累計：**2,977**人

タイ：2,361人 インドネシア：200人

中国：416人

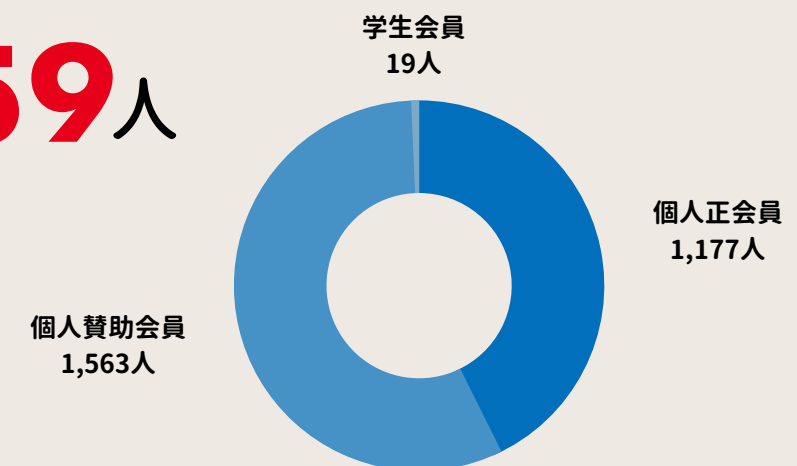
＼寄付総額／

¥**25,055,799**



＼個人会員数／

2,759人



理事長あいさつ



新型コロナウイルスも収束の兆しが見え、日常生活もようやく彩りを取り戻してきました。振り返るとこの3年間は、各国の重点課題への新たな取り組みの展開（中期計画2020-2022）時期でしたが、活動は何度も暗礁に乗り上げ、厳しい現実に対応する日々が続きました。皆様の力強いご支援がなければ、障がい児たちへのサポートを継続することは叶わなかったと思います。改めまして、皆様に心より厚く御礼申し上げます。

2023年度、WAFCAグループはコロナ禍で発生した特有の課題にも取り組みつつ、2030年ビジョン活動の4本柱一の実現に向けて新たな一歩を踏み出します。具体的には、個々の障がい児に合わせた自立支援、現場における活発な交流からなる相互理解、幅広い資金調達（活動財源の確保）、そして活動エリアの拡大等です。

私のコロナ禍前における現地訪問は2020年2月のインドネシアが最後でしたが、今年3月にタイに渡り、WAFCAメンバーの障がい児に対する個々への支援活動に帯同することができました。改めて強く感じたことは、WAFCAに関わるすべてのスタッフ、サポーターが、平等な立場で同じ思いを共有し、感謝と敬愛の心を忘れずに活動していくことこそがWAFCAの未来を創るということです。皆様、今後ともどうぞWAFCAそしてWAFCAグループを宜しくお願い致します。

WAFCA 理事長
桜花学園大学教授 寺田 恭子



副理事長



新体制となったWAFCAは、新たなスタッフを迎え、WAFCAthleteの皆さんの協力も頂きながら、設立30周年を迎える2030年を目標にさらに活動の輪を広げています。「誰ひとり残すことなく、平等に、豊かに、幸せに暮らすこと」を合言葉にしているSDGsも2030年を目標にしています。2022年版世界のSDGs達成度ランキング[i]で日本は19位でした。WAFCAが支援をしているタイは44位、中国が56位、インドネシアは82位という結果でした。我々の活動は、それぞれの国々の前進も支えることにつながります。国連設立から100周年を迎える2045年を見据えたポストSDGsについての議論も始まっています。長期的視野を持って『車いすが変える、子どもたちの世界。』をたくさん実現させていきたいですね。今後とも皆様と一緒にWAFCAを支えていきたいと考えています。

[i] 参照：Sustainable Development Report 2022

名古屋国際工科大学教授 佐藤久美

副理事長



2022年度も、引き続き、副理事長としてWAFCAの運営に携わらせていただきました。私は、株式会社デンソー総務部長としての役割もあり、今後もこれらの「二つの役割」を掛け合わせることで、社会に提供できる価値を最大化していきたいと考えております。

1台の車いすで、タイやインドネシアの障がい児が外出できるようになる、学校にも行ける、仕事にも就くことができる、まさに人生の可能性を広げる活動に取り組んでいる、私にとって、WAFCAの活動はそう実感できるものです。

1949年に創業したデンソーは、これまで社会・地域という土壌の中で、大きく育てていただき、35の国・地域で200拠点を構えております。今、世界各地の土壌が水や栄養を必要としているのであれば、今、まさに恩返しの時と考えております。

これまでWAFCAを育ててこられた諸先輩方、日頃からWAFCAを支えていただいている会員・企業の皆様に、心から感謝と敬意を表するとともに、受け継いだ襷を進化させ、確実に次世代につないでいくことで、2030年ビジョンを実現して参ります。

デンソー総務部 部長 加藤晋也

理事



日進医療器株式会社
代表取締役
松永 圭司

理事



愛知県立安城特別支援学校
元校長
藤原 孝太郎

理事



藤田医科大学保健衛生学部
リハビリテーション学科基礎理学療法学講師
都築 晃

理事



車いすダンスバーチェ
代表
豊田 優

理事



愛知県経営者協会
専務理事兼事務局長
岩原 明彦

理事



デンソー太陽株式会社
前代表取締役
岩崎 正

監事



会計事務所プロースト
税理士
金子 尚弘

監事



あいおいニッセイ同和損保株式会社
トヨタ営業部 部長
米光 秀司

WAFCAの強みである総合的、継続的支援を着実に推進
▶多くの障がい児が一人ひとりのレベルに応じた自立を実現



タイ事務局マネージャー
Wing
(ウイング)

2022年度の振り返り、課題、展望

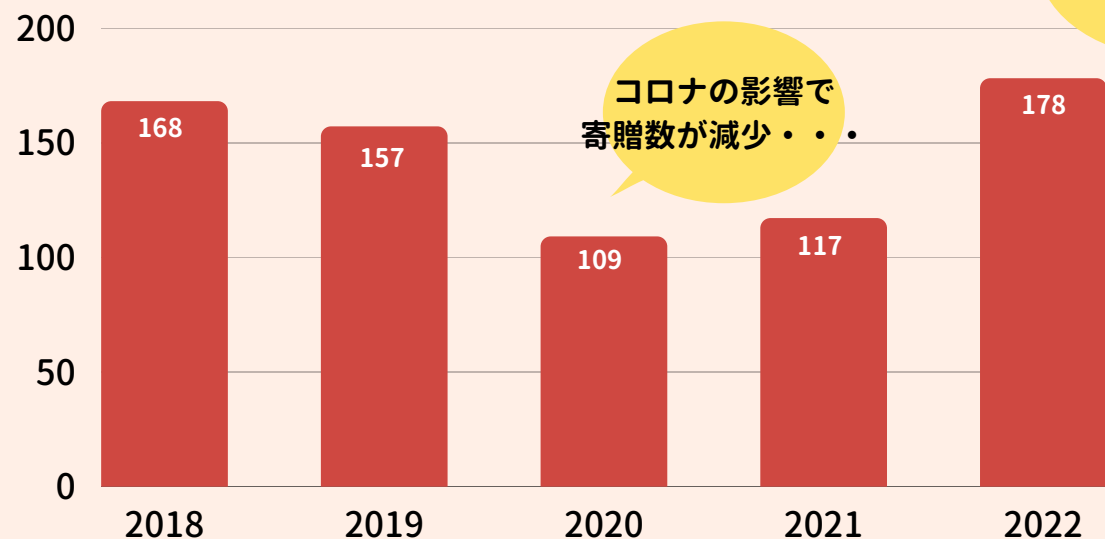
WAFCA Thailand(WAFCAT)のウイングです。WAFCATの2022年度の活動について報告をします。車いすサービスの提供の提供に関しては、日本のWAFCAから寄贈された中古車いす67台と111台の新しい車いすを、タイ地域全体にいる178人の身体障がい児に提供しました。そしてすべての奨学生54人に対して、奨学金支援やアクティビティ活動を行ったりしました。奨学生の中には大学を卒業できた子たちが2人（オームさんとドリームさん）います。2人は2019年にWAFCAの20周年記念式典に出席するため、学生代表として来日しました。

2023年に、WAFCATは150人の障がい児に車いすを提供する計画です。教育支援に関しては、現在および新規の奨学生を55人に増やします。バリアフリー化支援事業はルーイ県の学校で一件実施を予定しています。車いすの修理活動を地元のボランティアを集め、2回実施します。今年も奨学生対象の第6回能力向上キャンプを行います。初の試みとしては、若い障がい者のリーダー育成キャンプを今年度からやっています。これからもWAFCAのタイの障がい児支援をご支援賜りますようお願い申し上げます。ありがとうございます。

車いす支援事業

(単位：台)

5年間の推移



コロナ前の水準に戻ることができました

コロナの影響で
寄贈数が減少・・・

車いすを受け取った障がい児を紹介します

フルックくん

本誌表紙に起用された笑顔が素敵な男の子です！

現在、フルックくんはウドンタニー県におり、父親が廃材で建てた小さな家に住んでいます。両親と中学校卒業したばかりの姉と暮らしています。自分の土地で現金収入を得ることはできなく、貧しい家庭状況です。なので、両親は、出稼ぎをされていて、日本円で約1000円の日当が主な収入源となっております。しかし、毎日仕事があるわけではありません。

WAFCATは、2023年1月24日ウドンタニー県特殊教育センターの先生方の協力の元、新しい車いすを寄贈しました。

その後、2023年3月18日にフォローアップのために現地に行ったところ、フルックくんは以前より健康になっていました。壊れて使えなくなった古い車いすの代わりに、新しい車いすに乗ってどこにも行けるので、以前よりも楽しそうにしている、気分がよいということです。

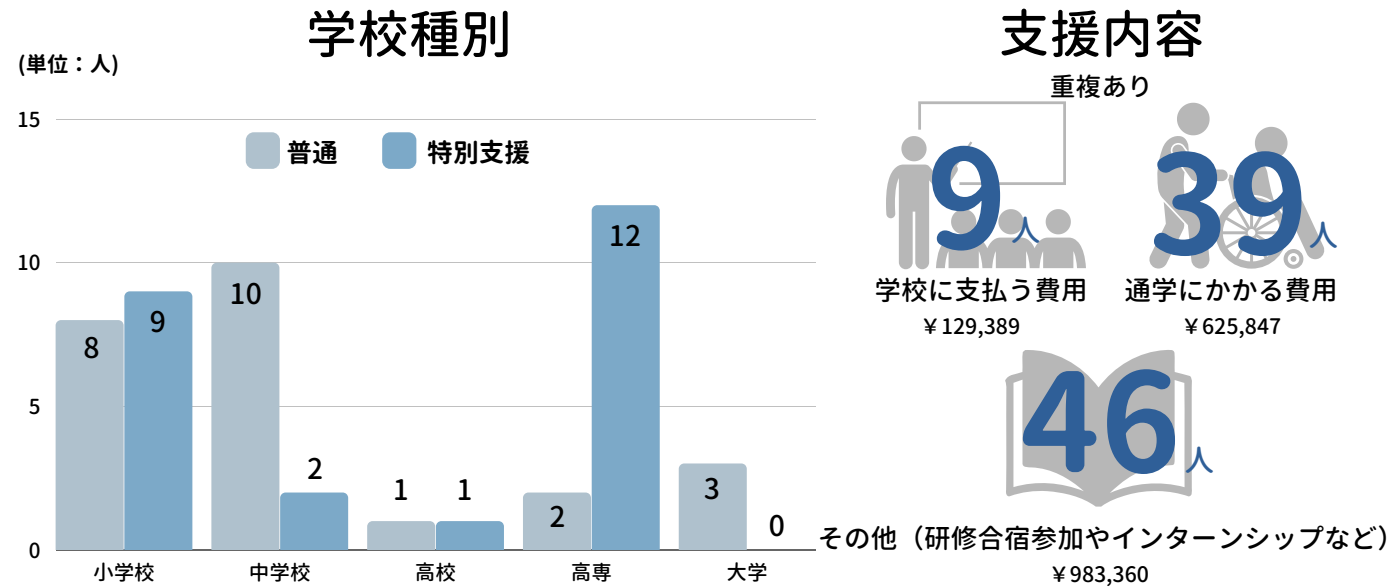
しかし、彼はまだ腕や足の可動域を増やすために両肩、肘、腰、股関節、膝、足のなどの関節のリハビリを行う必要があります。そのため先生は、自宅で簡単にできるリハビリできる装置を作りました(右下の写真)。母親にもリハビリを実施してほしいという思いから、先生は使い方を教えたり、新しい装置を作ってまたもって来てくれるそうです。

今後、WAFCATはバリアフリー事業のひとつとして、家とトイレのバリアフリー化の実施を予定しています。家の中で車いすの移動が楽になり、1人でトイレに行けるようになることを目指します。



障がい児教育支援事業

2022年度は48人の奨学生を支援しました



バリアフリー工事支援事業

タイ東北部、ナコンパノム県ナワー郡、バーンクットナムサイ学校で歩行器を使用しているオームシンちゃんの学校で、トイレを改築して綺麗にし、トイレ内には手すりを付けました。完成セレモニーでは、生徒によるテープカットとバリアフリー施設の利用デモンストラーションを行いました。



奨学金を受け取った障がい児を紹介します

ナムワンさんはWAFCAT事務所でインターンを約2か月間しました。事務所近くのアパートを借りて、初めての一人暮らしも経験しました。

元々、スリン県出身で、母親と兄弟3人で暮らしていました。スリン県にいる時に、障がい児をサポートしている先生と出会い、WAFCATについて知ることができました。能力向上研修合宿にも参加し、先輩方から志望校についてアドバイスをいただき、今の学校に入学することになりました。



インターンの感想をインタビューしました！

思い出として残っているのは、たとえ私がミスをしたとしてもWAFCATのスタッフの皆さんは全然怒らず、寄り添って教えてくれました。家族の一員のように、とても嬉しく、感動しました。どんなに困難な問題に直面しても、諦めない自分を誇りに思います。

WAFCAT奨学生向け 第5回 能力向上研修合宿

開催方法：対面開催
場所：チョンブリー県、パタヤ市
毎年行っている奨学生を対象にした能力向上キャンプを、今年は久しぶりの対面開催で行うことができました。

今回は、34名の奨学生が参加し、教師と保護者も同行しました。タイ全土から集まってきた奨学生の皆さんはとても熱心に取り組んでいました。奨学生の中には6名もの大学生がおり、後輩奨学生の良き先輩としてコーチングの手伝いをしてれています。

現地では、ICE-CREAM CAMPと呼ばれています。



- I= Inspiration (インスピレーション)
- C= Capacity (能力)
- E= Experience (体験・経験)
- C= Commitment (責任)
- R= Relationship (関係作り)
- E= Empowerment (力をつける)
- A= Achievement (達成感)
- M= Motivatuon (動機付け)





インドネシア



WAFCAIマネージャー
Leonald
(レオ)

2022年度の振り返り、課題、展望

私はWAFCA Indonesia (WAFCAI) のレオです。WAFCAI の2022年度の活動について報告をします。
日本の寄付者の皆様のご支援により、今年、WAFCAIはインドネシアの障がい児に車いす支援、奨学金、特別支援学校のバリアフリー工事を支援することができました。2022年度はさらに、親のための教育セミナーを実施することもできました。車いすによって障がい児が地域社会や学校で活動に参加できるようになりました。
2022年度3カ国合同で行った車いすダンス・グローバル・フェスティバルではインドネシアから多数の応募があり車いすで踊る幸せそうな笑顔を見られてWAFCAI事務局としても大変嬉しいです。

2022年度は障がい児に、様々なタイプやサイズの車いすを合計240台寄付しました。2年前から私たちが挑戦している車いすのアダプティブシートについては、不適切な座り方に関連する健康問題を予防することができ、姿勢矯正療法としても有益だと感じています。さらなる需要を満たし、車いすの不足を解決するため、私たちは協力財団とともに車いすを製造し、今年は、私たちの開発から生まれた100台の特別なアダプティブ車いすの配布も開始する予定です。

特に障がいの重い子どもたちでも自立ができるよう、サポートしていきます。また、日本の支援者の皆さんにお会いできることを願っています。インドネシアで待っています！

標準車いすにシートを取り付けて・・・

完成！

車いす支援事業



アダプティブシートとは

小児用特殊車いすが不足しているため、WAFCAIは、標準の車いすに適応座席を組み合わせることでこの問題を克服する取り組みを行っています。特別なサポートが必要な障がい児1人ひとりのニーズに合わせて設計されたものです。

車いすを受け取った障がい児を紹介します

ナジュワちゃん

ボゴールに住むナジュワちゃんは5歳の障がいのある女の子です。WAFCAIから提供されたアダプティブシート付きの車いすは、ナジュワちゃんと彼女の家族にとって非常に意義深く、彼らの日常生活に役立っています。WAFCAIのアダプティブシート付き車いすにより、ナジュワちゃんは快適に座ることができ、また不適切な座り方に起因する健康問題の緩和も図ることができました。

車いすに慣れ、とびきりの笑顔を見せてくれました。



明るいナジュワちゃん。家族と一緒に来てくれました。



初めての車いす。緊張の面持ちです。



シャーナズちゃんとお母さん。お母さんも喜んでくれています。

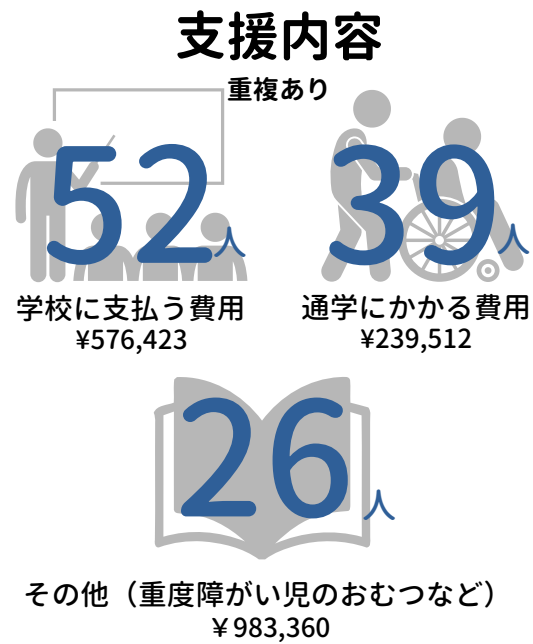
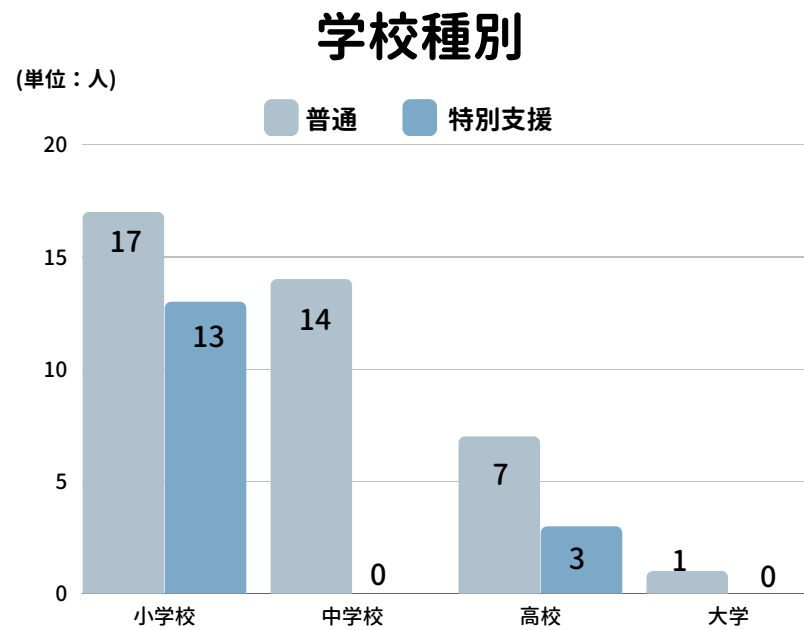
シャーナズちゃん

シャーナズちゃんは3人兄弟の末っ子で、貧しい家庭に生まれました。早産で生まれ、両方の指と両足がありません。車いすが買えないため、両親は2歳の頃にスケートボードを与えました。7歳になるまではスケートボードで移動をしていたそうです。

そして、ついにWAFCAIから車いすの支援を受けることができました。彼女が新しい車いすを試して自分で操作したとき、喜びの涙が流れていました。念願の車いすをもらったシャーナズちゃんは学校に通い、勉強と大好きな絵を頑張っています。

障がい児教育支援事業

2022年度は55人の奨学生を支援しました



バリアフリー支援事業

2022年度は、WAFCAIは2つの学校向けにバリアフリー支援を実施しました。そのうちの1つがSLB Bina Insani Depok学校です。ここでは、バリアフリードイレ、スロープ、床修理などの工事をしました。このプログラムを通じて、障がい者に優しい施設を備え、より公平なアクセスを持つことが期待されています。

障がい児の親のためのオンライン教育セミナー



3月10日、WAFCAIは障がい児の親を集め、教育への意識向上オンラインセミナーを実施しました。このイベントは「障がいのある子どもたちの教育と将来を支援する上での保護者の役割」と題され、WAFCAI奨学生30人とその保護者が参加しました。このセミナーの基調講演は、インドネシア障がい者親協会の副事務局長であるイブ・ニーナさんに務めていただきました。

保護者として障がいのある子どもたちの教育と将来を支援する上で果たす重要な役割について学ぶ良い機会になりました。



スロープができました！



石畳と砂で車いすでは通りにくい！

スムーズなコンクリートの通路になりました！

奨学金を受け取った障がい児を紹介します

ロフマンくん
ロフキムくん（双子）



ロフマンとロフキムは、双子の兄弟です。WAFCAIの車いす支援と教育支援を受けています。2人とも小さい頃から脳性麻痺にかかっており、歩くことが困難なため、車いすが必須です。現在、彼らはデポック県で両親と一緒に住んでおり、オンラインビジネスとマーケティングを勉強しています。

WAFCAIの奨学金プログラムは彼らの勉強にとって大きな助けとなり、この教育費の支援に家族全員がとても感謝しています。





中国



雲南省は中華人民共和国の南西部に位置し、ミャンマー、ラオス、ベトナムと国境を接しています。人口はおよそ4800万人。その約60%は少数民族で、省都は昆明市です。

中国の人口の92%は漢民族で、残りの8%が少数民族に分類されています。雲南省には中国で少数民族として分類されている55の集団のうち25集団が住んでいて、雲南省の人口の3分の1が少数民族です。

雲南省は中国の中ではもっとも開発の遅れている地域の1つで、所得格差も深刻化しています。少数民族が多く暮らす自治区や農村部の立ち遅れが格差拡大の原因と言われています。WAFCAでは10年前に活動場所を北京から雲南省に移し、昆明市にある雲南特殊教育職業学院（以下、特職院）で学ぶ障がいのある学生への車いすと奨学金の支援、雲南大学日本語学科の学生を交えた日中の若者の交流活動を行っています。



省都昆明市にある特職院では障がいのある学生が学科と職業専科を学んでいて、学生の内少数民族が約3割、約7割が貧しい農村・山村出身者です。2022年度には成績優秀で経済的困難を抱える学生50名に対し一人当たり500元（約10,000円）の奨学金授与を行いました。また下肢が不自由な学生10人への車いすの寄贈も実施しております。ここ数年間特職院と直接交流の機会が持てていない状況下、今後の交流事業の在り方が検討課題です。

2022年度の支援活動

2022年12月 特職院と協定延長の覚書を締結

2023年2月 奨学金授与実施（50名）

2023年3月 車いす寄贈実施（10台）



海外支援事業のサマリー・展望



タイでは23年前の車いす生産支援/寄贈を皮切りに、教育支援の奨学金提供や学校バリアフリーと支援領域を次々と広げてきました。長期間に渡る活動に伴い支援する障がい児の高年齢化・高学歴化が進み、より質が高くきめ細かな支援サービスへのニーズが高まっています。

インドネシアも来年には設立10周年の節目を迎えます。米系の大手車いす寄贈団体の撤退の影響を受け、最近ではWAFCAIへの車いすの申請が急増し、同時に車いすのサプライチェーン（供給の流れ）の問題にも直面しています。

こうした直近の現地状況を踏まえ、WAFCAT及びWAFCAIと新たな共同プロジェクトに取り組む計画です（呼称Project X）。これはVisionに掲げた「障がい児のレベルに応じた自立と生活の質の向上」を目指し、WAFCA支援活動のレベルアップを図るものです。また中国では前述の通り今後の交流の在り方を検討していきます。

グローバル経営の中核を担うWAFCAとしては、現地の仲間の声に耳を傾け、会員の皆様をはじめとする関係者とのコミュニケーションをより密にしてWAFCA Group Vision 2030実現に向けて全力で取り組んで参ります。



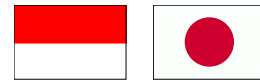
国際交流事業

ビジョンの実現に向けた活動の4本柱

日本と海外の交流

日本と海外および海外現場間の交流を定期的かつ活発に促進
▶①相互理解と支援レベル向上 ②各国でWAFCAへの共感拡大

オンラインツアーinインドネシア



日程：8月6/13/24/25/27(全5日間)
参加者：日本の高校生・大学生 11名
アルアズハル大学(ジャカルタ) 4名
参加費：5,000円
(非会員の方は、別途入会費1,000円)
協力：WAFCAI・アルアズハル大学

インドネシアについて勉強会

- ✓スラムとゴミ山について
- ✓インドネシアのバリアフリーの現状
- ✓インクルーシブな学校について
- ✓イスラム教について

ディスカッション

テーマ：
障がい者が生きやすい社会

交流

日本の学生×インドネシアの学生
参加者×WAFCAI奨学生

目的

1. WAFCAIスタッフや現地に住む障がい児とその家族の「生の声」を直接聞くことで、途上国の問題を身近に感じ、理解を深めることができる。
2. 同世代であるWAFCAIの奨学生やインドネシアの日本語学科の大学生と交流することで、グローバルな社会問題を自分事として捉えることができる。
3. 全国の学生同士が対話することでお互いに刺激を受けて、ツアー後もアジアの課題解決のために行動しようとする事ができる。



参加者の感想

日本の学生(貴生さん)



大学最後の夏に国際協力をしたと思い参加しました。その目標を十分に達成出来たと満足しています。これまで大学でやってきた活動とは少し違い、高校生から大学生、さらにはインドネシアの学生というような幅広い層とディスカッションをし、ツアーを作れたことはとても良い経験でした。

インドネシアの学生(イクバルさん)



本当に今までの中で、最高の経験です。このツアーで、私はたくさんのことをもらえました。通訳者としての貴重な経験をはじめ、障がい児との直接の出会い、日本人や奨学生との意見交換など、そして一番大切なのは自分の日本語力の上達することです。とにかく、このツアーに参加させていただいて、本当にありがとうございます。

第2回

車いすダンス グローバル フェスティバル



応募者：37チーム
(インドネシア28チーム、タイ5チーム、日本4チーム)
受賞式：2月18日
場所：Dスクエア
観覧者：70名(2021年度の約2倍)
ゲスト：全盲の歌姫 若渚さん
協賛：愛知県スポーツ局
車いすダンス名古屋 ビバーチェ



目的

1. 障がい児が家族や先生と一緒に楽しみ、さらに運動効果も期待できる車いすダンスの普及
2. 車いすダンスを通じてタイ・インドネシア・日本の障がい児家庭や学校間の国際交流の促進

イザール君とお母さん(ペア部門金賞)

「金賞を受賞できて嬉しい。自分と母が工夫を凝らしたペアダンスが他の子にインスピレーション、良い影響を与えられたと思う。今後は車いすダンスする仲間を増やしてもっと楽しみたい」。こうした声を基に昨年度からWAFCAIでは独自に車いすダンスイベント企画して現地での普及活動に取り組んでいます。



マハタイ財団カレッジ学生(グループ部門銀賞)

「WAFCAI奨学生宛てのイベント案内を見て級友を集めて応募した。クラスメイトは大人気で楽しく一緒に踊れることをとても喜んでくれた」。また校長先生からは「車いすダンスはコンペティションだけでなく、遊びや授業の一環としてやるのも良いのでは」と新たな車いすダンスの価値を提案頂きました。WAFCAIと同財団の間では「車いすダンストレーニング合宿」の話が持ち上がっており、インドネシア同様にタイでも独自の活動へと発展してきていることを嬉しく思います。





WAFCA日本の取り組み 広報啓発事業

● チャリティー映画会を実施



6月18日WAFCAの年次総会后、チャリティー映画会を開催しました。上映後のトークショーでは、WAFCAオフィシャルサポーターの伊集南さんナビゲートの元、デンソーアイリスの選手である赤穂さくらさんと木村亜美さん、デンソーボート部OGの上総香子さんと末廣あすみさんにご登壇いただき、映画の感想や映画にちなんだ「あなたにとってチームとは？仲間とは？」というテーマで語っていただきました。

● WAFCA Athlete 発足

WAFCAを応援するプロのアスリートチームが発足しました。WAFCAとAthleteでWAFCA Athlete（ワフカアスリート）です。2022年度は13人でスタートをし、広報を目的としてイベントの共催などを実施しました。(P.23参照)

WAFCAにとって新たな層への広報・資金調達が広がっています。今後は下記のようなアスリート自身の個性を活かした事業を実施です。



アスリートのファンへ、WAFCAの活動を広げよう！

メンバーの一覧はP.28をご覧ください。

車いすを届けようキャンペーンを実施しました

WAFCAサポーターの皆様、こんにちは！
デンソーアイリス、WAFCA Athleteの赤穂さくらです。
3月11日12日にバスケの試合会場で車いすを届けようキャンペーンを行いました！私は右足と左足のサイズが違うため、毎回使わない方のバッシュが出てきてしまい、それを捨ててしまうのがもったいないと感じていました。そこで、WAFCAに新規入会いただいた方にはバッシュ、3,000円以上の寄付をくださった方には永田萌絵・木村亜美と一緒に作成したサイン式紙をプレゼントしました。その結果、14名の新しい入会と車いす3台分になるご寄付をいただきました。これからも多くの子どもたちに車いすが届けられるよう活動を続けます。応援よろしくお願いします！



● 出前授業

オンラインスタディーツアーin インドネシアの参加者でWAFCA Youth Groupに所属しているメンバーが有志で集まり、WAFCAの活動を広く多くの人に知ってもらうべく授業チームを発足しました。



目的

- 1.WAFCA Youth Groupのメンバーが今まで学んだことや経験したことを、自分だけにとどめておくのではなく、高校生や大学生に伝える。
- 2.障がい者の置かれた立場について少しでも知って頂ける機会にし、考えるきっかけになったり、少しでも興味を持ってもらう。

実施校

- 大阪YMCAインターナショナルハイスクール 2023年2月10日
内容：WAFCAについて、Youth Groupの活動、車いすレクチャー（たたみ方、広げ方）、ディスカッション（アジアの障がい児のために何が出来るか考えてみよう）
- 愛知県立刈谷北高校 2023年3月16日
内容：WAFCAについて、Youth Groupの活動、国際貢献できる人材とは、国際協力分野のキャリアについて

参加した生徒の感想



興味はあるけれど、あまり知らないことが多かったので、収穫がたくさんありました。これを機に私もボランティア活動について考えてみたいと思います。



今までは組織や活動の説明に焦点を当てて説明して下さる会が多かったのに対して、今回、ご自身の経験や、国際機関に就職するまでのプロセスや大変なところなど、現実的なところまで詳しく説明して下さったので、すごく価値のある時間でした。

● かりやWAFCAマルシェ

3月25日、飲食・物販ブース出店・スタディークイズラリー・ボッチャ体験・フードドライブ・アートプログラム・車いす体験ツアーなどの企画を実施しました。イベントを通じて地域住民、出店者（刈谷の障がい者支援団体）、WAFCA会員の交流の場をつくることができました。また、このイベントは40名のボランティアに支えられて実施しました。普段からWAFCAを支援して下さっている方々だけでなく、春休み中の学生やこれまでつながりの薄かった地域の方々が、WAFCAと関わるきっかけにしてくださいました。



● WAFCA日本の取り組み ファンドレイジング事業

● 会員募集

2022年度は2つの取り組みをおこないました！

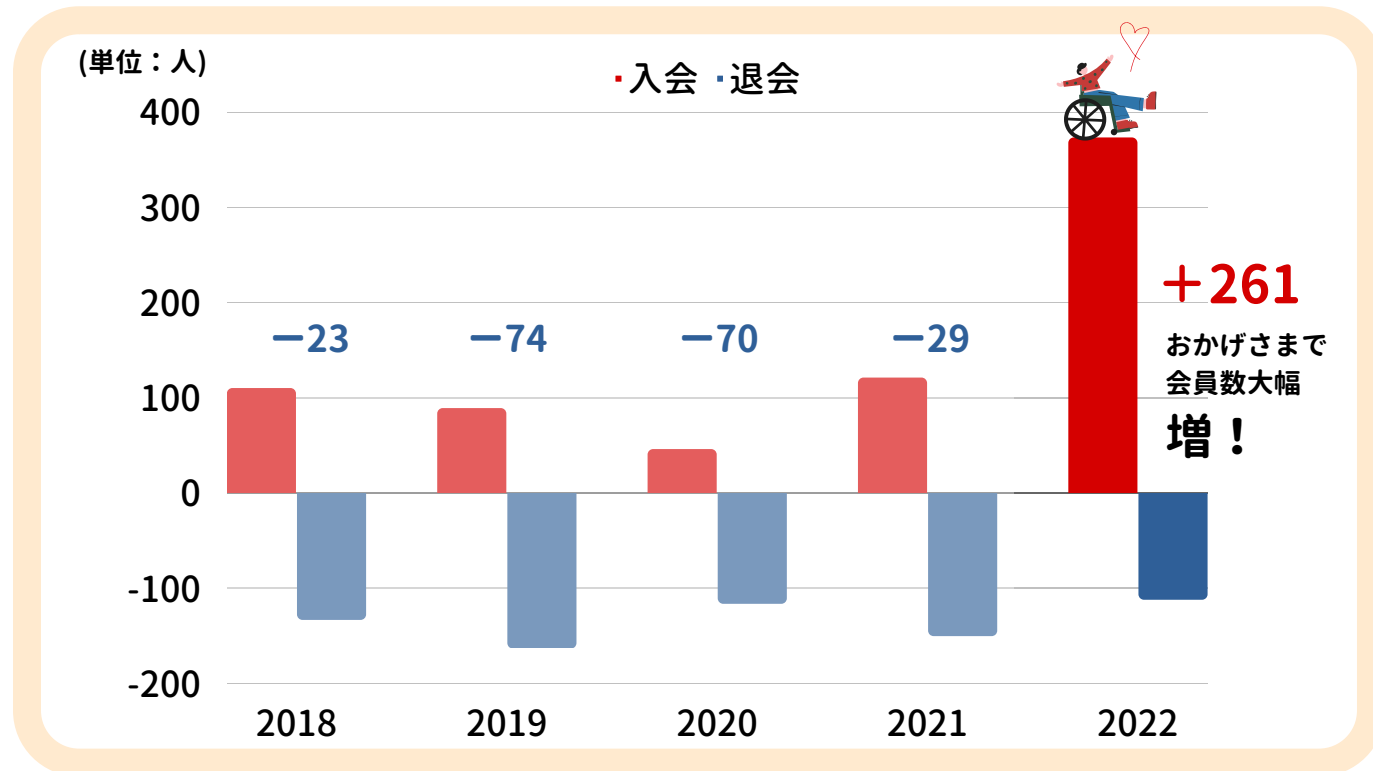
- ☑ デンソー本社、製作所を中心に食堂での直接の声掛け
- ☑ WAFCAthleteとの協同企画による会員募集(P.19参照)



入会特典

入会者にはタイの障がい児ウィナダーさんがデザインしたオリジナルトートバッグをプレゼント。ウィナダーさんは生まれつき両脚と右腕がありませんが、絵を描くのが得意な明るい女の子です。WAFCAはウィナダーさんを奨学生として、10年間支援をしており、現在は高等専門学校に通っています。

▼ その結果・・・



所感と課題

デンソー内で直接社員の方に声をかけて会員募集を行うことにより、多くの方が活動に賛同し、入会いただくことができました。また、WAFCAthleteとの協同企画で新たな層の方に活動に共感いただき、入会いただくこともできました。23年度も引き続き、取り組んでいきたいと思っています。

● 100円未満募金

／ 車いす24台分になりました ／

2022年度末 登録者数 **1,017人** 寄付額 **601,158円**

2021年度4月からデンソー社員の皆さんを対象に開始した100円未満募金は、約2年で累計募金額801,544円、寄贈車いす台数は累計32台となりました。

皆さんのあたたかい募金が障がい児の車いす支援につながっています。現在はデンソー社員の方のみが対象ですが、²¹他のグループ会社の社員の皆さんにも展開していきたいと考えています。引き続きよろしくお願いいたします。

● チャリティー商品

2022年度 売り上げ **478,306円**



タイの障がい者が作ったワイヤーとビーズ商品が看板商品です。特にタイのタクシーである「トゥクトゥク」や「ロボット」は製作者の技術の高さに多くの方が驚き、購入していただいています。23年度もWAFCAタイランドおよびインドネシアと新商品について検討し、売上アップと障がい者支援につなげていきたいと考えています。

／ チャリティー商品の制作者を紹介します ／



トゥムさん

トゥムさんは両親と一緒にチョンブリー県に住んでいます。9歳から障がいのある女性です。トゥムさんのお母さんにも障がいがあり寝たきりで、トゥムさんがビーズを使った雑貨を製作し家計を支えています。

現在59歳ですが、就学年齢のときは学校へ通えなかったそうです。しかし45歳でパタヤ職業訓練学校の障がい者職業訓練プログラムに出会い、通い始めました。

職業訓練修了後はビーズで作ったものを売り、さらにテクノロジー高等専門学校の生徒にビーズを使ってものを作る方法を教える先生としても活躍中です。



／ 2022年度も実施しました ／ WAFCA Youth Group開発！ チャリティー商品

タイの障がい者が織った「さをり」を使ってWAFCA Youth Groupが開発した2023年のスケジュール帳をWAFCAのチャリティー商品として販売しました。活動に賛同した多くの方にご購入いただくことができました。お買い上げ1冊につき、500円がアジアの障がい児の車いす寄贈費になりました。

WAFCA Youth Group一覧はP.28参照



● チャリティーウォーク

12月3日～12月9日にWAFCA初のアプリを使ったチャリティーウォークイベントを実施しました。

- 目的
- ① 広報
 - ② 資金調達

このチャリティーウォークを通じて、WAFCAのことを多くの人に知ってもらいたい。「社会貢献」や「ボランティア」の一步を踏み出し、障がい児支援になる。そんなイベントを目指しました。

申込者数
267名

総歩数
11,028,127名

収入

参加費＋上乗せ寄付 ¥401,000
+ 協賛企業からの上乗せ寄付 ¥500,000
¥901,000

参加者の感想

歩くことで沢山の人を救うことができる上に、自身も健康になれた！こんな嬉しいことはないと思いました。参加して良かったです！

WAFCAを通じてアスリートが社会貢献に理解があるのがうれしかったです。歩くモチベーションが高まりました！

個人の力は小さくても仲間の力を合わせれば大きな結果に繋がるという事を実感しました。また目標・目的が他人の為という「利他」の心が、普段以上のやる気に繋がりました。楽しく参加させて頂きました。

寄付月間「ムーブメント賞」を受賞しました



- お金だけでなく歩くことが寄付になっていた
 - アスリートを中心に参加者や企業を集めることができた
- 以上2点が受賞のポイントでした！

寄付月間とは、「欲しい未来へ、寄付を贈ろう。」を合言葉に毎年12月の1ヶ月間、全国規模で行われる啓発キャンペーン。民間非営利組織、企業、大学、行政、国際機関などが推進委員会を設置し、2015年からスタートした。

初回の企画にも関わらず、多くの方にご参加いただきました。今までWAFCAと関わりのなかった方のご参加が全参加者体の4割を占める結果となり広報としての成果を出すことができました。

また、資金調達面ではお申込者の方から予想を上回る参加費への上乗せ寄付をいただき、さらに当初掲げた歩数を期間最終日に達成したことで協賛企業様からの寄付をいただくことができました。

今回開催をし、改善すべき点もたくさんあるので、反省を活かし2023年度の開催につなげます。

参加者特典

WAFCAthleteと自立生活センターアクセル協力による、より体を動かすことを楽しめる参加者限定動画を配信しました

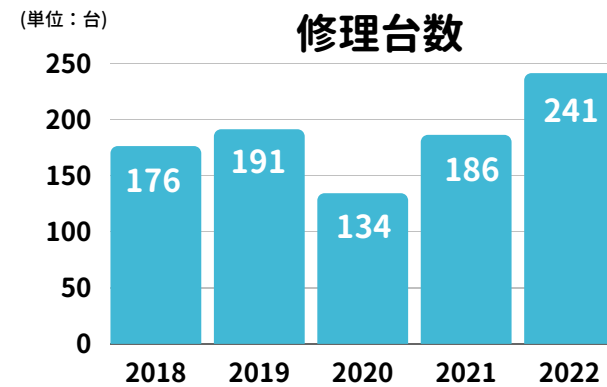
- ボート選手が教える今すぐできる強い体づくり講座
- ソフト選手が教えるトレーニング講座
- 車いすユーザーが教えるストレッチ講座
- バスケット選手が教えるトレーニング講座
- バレー・ソフト選手コラボ企画毎日簡単にできるエクササイズ講座
- 卓球選手が教える脚力アップ講座

● 車いす病院

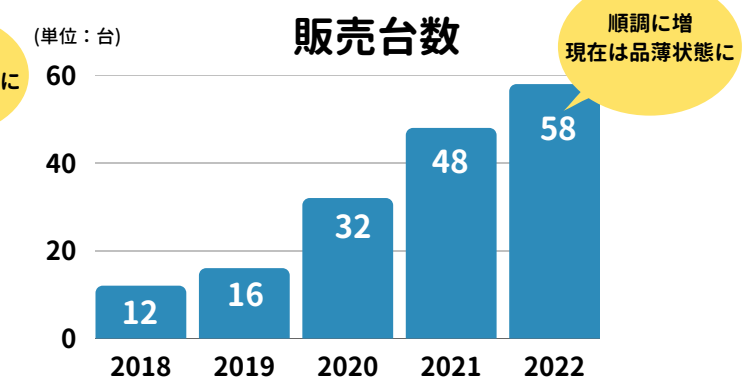
車いす病院は2022年度も大躍進！今年度からマネージャー制度を作り、ボランティアを代表して右写真の2名が車いす病院を牽引してくれました。



小田秀一さん 山下亮さん



241台のうち73台は500円で手軽にできる定期点検でした。徐々に定期点検が浸透し地域の車いすの安全性を向上しています。



安価で安全な中古車いすは、介護施設などで需要が高く、さらに口コミで販売数が伸びています。今後は不要車いすの回収に一層の力を入れます。

¥652,532の利益があり、21台の車いす寄贈費になりました



ボランティアの声

「車いすを待っている子供達のために」事務局やボランティアの皆さんの熱い思いや心優しさを間近に感じて、自分も一員になれて良かったと思いました。

世代の違いなどの新しい人との関わりによる発見が多く、刺激を受ける事ができました。

利用者の声

修理してくれるところがなく、途方に就いていました。車いす病院があってよかったです。

西南学院大学から車いすをいただきました



12月、福岡県福岡市にある西南学院大学様から、大学の授業で使用していた車いす17台をご寄贈いただきました。17台の車いすは、大学の授業の一環で介助演習に使われていたそうです。いただいた車いすは、整備再生をし中古品として販売をしました。今回、福岡県という遠方からの車いす運搬に際しまして、西南学院大学様の善意に感謝し、WAFCAの活動に賛同する仲間として株式会社デンソーソリューション様に仲介サポートをいただき、株式会社デンソーロジテム様のご支援の下、カリソー株式会社様に運搬いただきました。たくさんの方のご尽力で、長い道りを経て刈谷に車いすが届きました。中古販売で得た収益は、アジアの障がい児の自立支援に大切に使用させていただきます。

WAFCA会員の声

私は、ボランティア活動を始めたいと思い調べていたところ、車いす病院ボランティアの存在を知りました。そして、説明会で車いすを受け取った海外の子どもたちのメッセージを拝見し、きらきらした笑顔が印象的で、私も力になりたいと思い22年3月に正会員としてWAFCAへ入会しました。

最近、家族が足のケガをして車いすの生活が必要だったため、これまで以上に生活範囲はバリアフリーになっているか、手すりはあるかなどをより意識するようになりました。

WAFCAの活動は、車いすを送ることだけではなく、車いすを必要としている子どもたちひとりひとりに向き合い、成長に繋がる支援をされていて大変共感しています。誰もが安心して自由な生活ができるような世の中が変わっていくよう願っております。



正会員 五十嵐景子さん

WAFCAに入会するきっかけとなったのは、現在のボランティア活動以外にも仕事をしようと思ったからです。何故？仕事なのと思う方もいるでしょう（笑）それはあるボランティア活動した時に元役員が私にかけてくれた言葉にあります。「会社で仕事するだけが仕事ではないよ。ボランティア活動も大事な仕事の一つです。頑張っただけでいいよ」でした。それ以来ボランティアも仕事としても考えるようになり、WAFCAで違う支援が出来ればと思ひ会員になりました。



WAFCAに入会して最初に自身も体を動かして参加出来たイベントがチャリティウォーキングでした。歩くことで自身の健康促進と参加者が力を合わせ支援できる素晴らしいイベントと思ひました。これからも会員の皆さんと共に貢献出来ればと思ひます。

賛助会員 森川 哲也さん

私がWAFCAと出会ったのは、2021年12月のぼらマッチでした。当時はコロナ禍での行動制限の余波がまだ残っており、私が所属していた大学のボランティアサークルの活動も大打撃を受けました。そこで、副部長(当時)だった私は、イベントの開催を予定しているボランティア団体を探し、その際に声を掛けていただいたのがマルシェを控えていたWAFCAでした。

メンバーに迎えていただいた後は、マルシェでのボランティア募集担当としての役割だけでなく、チャリティー商品開発にも参加させていただきました。これまでのボランティア活動では、多くの方々からサポートを受けてきたので、今後は私からも少しでもWAFCAに関わる方々のお力になりたいと思ひます。



学生会員 下之園 拓望さん

WAFCAは2,759名（2022年度末時点）の個人正会員・賛助会員の方々と46社・団体の団体正会員・賛助会員の皆様に支えられて活動しています。今回はその中から3名の方と1社に代表してメッセージをいただきました。



団体正会員

WAFCAとデンソーロジテムは同じ1999年に誕生し、以来浅からぬ縁を感じながら共に歩んできました。社会貢献の在り方は異なりますが、全ての人々が平等に輝く社会を目指すという理念に共感し、昨年度もチャリティーウォークやデンソーグループが一丸となり西南学院大学からの車いす寄贈プロジェクト(P.24参照)に参加させて頂きました。

特に車いす寄贈プロジェクトでは、ロジテムの専門性を活かしつつ物流パートナーにも理念に共感頂き、車いすと共に関係者の皆様の想いも一緒に運べたことが印象的でした。

これからもWAFCAへの支援の輪が広がるよう微力ながら貢献していきたいと思ひます。

代表取締役社長 岡崎 彰徳

ご支援・ご協力いただいている企業・団体様一覧

団体正会員

株式会社デンソー／あいおいニッセイ同和損害保険株式会社／カリソー株式会社
 デンソーテクノ株式会社／デンソー太陽株式会社／デンソー労働組合／トヨタL&F中部株式会社
 株式会社RandTカンパニー／株式会社UACJ Marketing & Processing／株式会社アイピックス／株式会社クイックス
 株式会社デンソーウェーブ／株式会社デンソーシェアードサービス／株式会社デンソーエアクール／株式会社デンソーエスアイ
 株式会社デンソーエムテック／株式会社デンソーエレクトロニクス／株式会社デンソーダイシン
 株式会社デンソートリム／株式会社デンソーファシリティーズ／株式会社デンソープレステック／株式会社デンソーリマニ
 株式会社デンソーロジテム／株式会社デンソーワイズテック／株式会社デンソー郵船トラベル／株式会社マキノ
 株式会社ヤマイチプライメタル／刈谷紙器株式会社／京三電機株式会社／暁輸送株式会社／社会福祉法人太陽の家
 石川管工株式会社／赤門ワイレックス株式会社／浜名湖電装株式会社
 株式会社八神製作所／中部産業株式会社(順不同)

団体賛助会員

伊藤精工株式会社／株式会社デンソー コアスキル開発部 技能人材開発室 DNA研修課
 株式会社デンソーサービス沼津／株式会社デンソーユニティサービス／株式会社デンソーワイパシステムズ
 車椅子ツインバスケット岐阜エクスプレス／寿金属工業株式会社／日本福祉大学/スマイルひねる会/
 株式会社モビリティイノベーションテクノロジー(順不同)

チャリティー自動販売機協力企業

株式会社アベックス (設置 株式会社デンソープレステック)、株式会社PSビバレッジ (設置 株式会社クイックス、WAFCA)
 サントリービバレッジソリューション株式会社 (設置 日進医療器株式会社、公盛工業株式会社)
 株式会社シェフランチ (設置 株式会社デンソーエアシステムズ)



WAFCA PR/事務 ボランティア



秋山和豊



根本健多



岡松良典



佐々木明美



五十嵐景子



WAFCA日本事務局長 木村隆彦

WAFCAほど多彩・多才な仲間が活動に関わるNPOは稀ではないでしょうか。大幅に増えた個人・団体会員に加え、多数のボランティア、WAFCAathlete13名、全国にいるYouth Groupメンバー。活動を支えて頂く多くの仲間のみなさまのお力添えを大変心強く感じております。

WAFCA車いす病院ボランティア



小田秀一

山下亮

神谷一敏

山内一慶

河野千俊

岩田吉臣

小山政浩

藤原亮一

橋高寛治

池田直

金原秀敏

島田行祥

山崎裕一

岡田ちあき

塩屋文嵩

佐々木悠人

松井清

大見章

WAFCA中国コーディネーター



チョウケツ 張傑

WAFCA日本事務局



皆川理恵



近藤みなみ



北村翔一

WAFCAで はたらく 仲間 たち

WAFCAタイ事務局



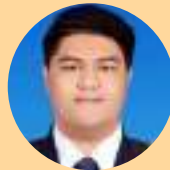
ウィング



イウ



プレー



オート

WAFCAインドネシア事務局



レオナルド



アグス



エフィ



リヤ

WAFCAathlete



伊集南

赤穂さくら

永田萌絵

木村亜美

山澤 葵

川畑 瞳

州鎌 夏子

工藤 嶺

上総 香子

庄司 祐美子

末廣 あすみ

阿部 愛莉

野村 萌

WAFCA Youth Group



下之園 拓望

藤田 侑里

深谷 国弘

近藤 咲里

山本 羽奈

佐々木 唯乃

佐々木 悠人

植田 まさみ

小川 昌子

上野 妙子

井本 有哉

WAFCAタイ事務局長 ピナイ・シリナコーン

日本のスポンサー、寄付者の皆様、いつもご支援いただきありがとうございます。感謝申し上げます。コロナも落ち着いてきたので、支援者の皆様、一度タイに遊びに来てください。WAFCAスタッフ一同がお待ちしております。

WAFCAインドネシア事務局長 ダヌー

日本の皆様のおかげで、WAFCAはすべてを成し遂げることができ、私たちは障がい児たちの生活の質を向上させるためのサービスを提供することができました。私たちは、インドネシアのすべての障がい者が、より良い生活と自立ができるよう、支援を続けます。改めて、継続的なサポートに感謝し、日本の皆様に健康と幸福が常に訪れることを祈っています。

財務報告

単位：円

| 科目 | 2022年度 | | | 2023年度 | | |
|-----------|------------|------------|------------|------------|------------|------|
| | 計画 | 実績 | 計画達成率 | 計画 | 対前年増減率 | |
| 収入 | 会費 | 14,500,000 | 14,331,400 | 99% | 14,800,000 | 103% |
| | 寄付金 | 26,895,000 | 25,055,799 | 93% | 23,295,000 | 93% |
| | 助成金 | 50,000 | 0 | 0% | 0 | 0% |
| | 事業収益 | 1,970,000 | 2,436,829 | 124% | 5,720,000 | 235% |
| | その他 | 561,000 | 3,108,671 | 554% | 670,000 | 22% |
| 収入合計 | 43,976,000 | 44,932,699 | 102% | 44,485,000 | 99% | |
| 支出 | 事業費 | 40,446,704 | 40,521,504 | | 43,035,273 | |
| | 管理費 | 6,661,800 | 5,429,519 | | 6,334,460 | |
| 支出合計 | 47,108,504 | 45,951,023 | 98% | 49,369,733 | 107% | |
| 収支差額 | -3,132,504 | -1,018,324 | | -4,884,733 | | |
| 法人税 | 21,000 | 21,000 | | 21,000 | | |
| 前期繰越正味財産額 | 61,303,908 | 61,303,908 | | 60,264,584 | | |
| 次期繰越正味財産額 | 58,150,404 | 60,264,584 | | 55,358,851 | | |

| I. 資産の部 | | |
|---------|-------------|------------|
| 流動資産 | 現金・預金 | 38,188,095 |
| | 青少年交流基金特定資産 | 1,000,000 |
| | 前払金 | 114,817 |
| | 貯蔵品 | 179,405 |
| | 繰越商品 | 97,643 |
| 流動資産計 | 39,579,960 | |
| 固定資産 | 有価証券 | 20,296,007 |
| | 商標権 | 237,806 |
| | 車両運搬具 | 813,605 |
| | 什器備品 | 128,233 |
| 固定資産計 | 21,475,651 | |
| 資産合計 | 61,055,611 | |

| II. 負債の部 | | |
|-------------|------------|---------|
| 流動負債 | 未払金 | 580,846 |
| | 預り金 | 210,181 |
| 流動負債計 | 791,027 | |
| 固定負債 | — | 0 |
| 固定負債計 | 791,027 | |
| III. 正味財産の部 | | |
| 前期繰越正味財産 | 61,303,908 | |
| 当期正味財産増減額 | -1,039,324 | |
| 正味財産計 | 60,264,584 | |
| 負債及び正味財産合計 | 61,055,611 | |

収支計算書、貸借対照表は、会計帳簿の記載金額と一致し、認定NPO法人アジア車いす交流センターの収支状況及び財政状態を正しく示していると認める

金子 尚弘
米光秀司

財務に関する分析

2022年度

今年度は受取会費・受取寄付金ともに予算額を下回りましたが、チャリティイベントを実施するなど事業収益は予算を上回る結果となりました。

また、円安の影響により為替差益も計上され、経常収益全体は予算額を上回る44,932,699円となりました。一方で経費は主に人件費が減少したことで経常費用全体は予算額を下回り、正味財産増減額は1,018,324円のマイナスとなりました。

2023年度

デンソーからの寄付の減少を見込んでいますが、コロナ禍から日常への回帰が進んでいることからチャリティワーク等の自主イベントによる収入を増加させるための取り組みを行う予定です。

また、経費についても国内外交流事業や現地出張費などを見込んでおります。22年度の経費実績を上回る予算となっていますが、寄付以外の収入に繋がるよう費用対効果を検証しながら積極的に事業を推進して行く予定です。会員の皆様からは引き続き様々なご意見・ご支援を賜りますようお願いいたします。

WAFCAが目指す未来の姿(WAFCA20周年記念作品)

